千葉大学教育学部研究紀要　第65巻　147～158頁（2017）

造形，美術（図画工作・美術科）教育における 教員養成カリキュラムの編成への提言

― 造形，美術教育学の構造内容を骨格構造にした編成方法 ―

佐々木　達　行

千葉大学教育学部

A Proposal to Teacher Training Curriculum Arrangement in the Art Education

―How to Form an Adequate Curriculum Based on the Structures and Contents of Art Education―

SASAKI Tatsuyuki

Faculty of Education, Chiba University, Japan

本論は右図（**図表１**）に，私が研究を構造的に捉えるために「造形，美術教育学の構造内容」[1] として設定した内容項目の主としてⅦ（ゴシック文字）に位置づけた研究である。

本論のテーマは造形，美術教育における「教員養成カリキュラムの編成方法と内容」を捉え，そのカリキュラムの骨格と内容の概要を提言していくことである。

造形，美術教育の教員養成カリキュラムの編成は，主に「表現・鑑賞の内容要素」と「指導方法」で編成されることが多い。

しかし，図画工作・美術科教育，すなわち義務教育に携わる教員に求められる資質や能力は，造形，美術の「表現・鑑賞内容の知識や技術」とその「教え方」，つまり「指導方法」だけではない。

造形，美術教育は，一般の造形，美術の内容における専門教育と混同されがちであるが，それらと造形，美術教育における教員養成とは異なったものである。つまり，「造形，美術大学」と「造形，美術教育大学」では「教育課題」の違いがあるということだ。

図画工作・美術科の教員としての資質や能力とは，造形，美術教育学の全体にわたる造詣を持っていることが重要になる。

そこで，造形，美術教育における教員養成のあり方を，図画工作・美術科教育の教員に求められる資質や能力，あるいは教員養成大学に求められる「教育課題」を「造形，美術教育学の構造内容」を考察しながら，それらを骨格構造にした新たな「教員養成カリキュラムの編成方法と内容」の概論を提言していく。

造形，美術教育学の構造内容

Ⅰ　造形，美術教育と教育原理（哲学）
Ⅱ　造形，美術教育と教育心理
Ⅲ　造形，美術教育と美術史
Ⅳ　造形，美術教育と造形，美術教育史
Ⅴ　造形，美術教育と社会システム
Ⅵ　造形，美術教育の理念と教育課題
Ⅶ　造形，美術教育とカリキュラム
Ⅷ　造形，美術教育と授業構造，及び授業デザイン（構成）と授業分析
Ⅸ　造形，美術教育と表現・鑑賞内容，及び教材／題材内容開発
Ⅹ　造形，美術教育と指導方法
Ⅺ　造形，美術教育と教育臨床（実践授業開発）

（図表１）

キーワード：造形，美術教育（Art Education）　教員養成カリキュラム（Teacher Training Curriculum ）
カリキュラム編成方法（Curriculum Arrangement）
造形，美術教育学の構造内容を骨格構造にした（Based on the Structures and Contents of Art Education）
表現・鑑賞内容（Formative Art and Appreciation）

１　造形，美術の「表現・鑑賞内容」と教育学

①　造形，美術の「表現・鑑賞内容」と「内容要素」

一般的に造形，美術表現は，どの様な内容があるのかを考えるとき，絵画表現，彫塑表現，デザイン表現，工作・工芸表現，等を考えることが多い。表現としての形式，所謂**「表現形式」**の視点から内容の要素を捉えているのである。

しかし，造形，美術表現の内容の要素は，「表現形式」以外からも捉えることができる。

例えば，絵画的な表現を取り上げてみると，宗教画，静物画，風景画，人物画，寓話画，等から内容を考えることができる。これらは**「表現対象（モチーフ）」**の視点から内容の要素を捉えたものである。

また，**「表現材料」**の要素の視点から，日本画，テンペラ画，油彩画，水彩画，水墨画，鉛筆画，等として表現内容を捉えることも出来よう。

さらに，漆や螺鈿画，染め付けや呉須絵（陶芸），染色，

版画（木版，エッチング，ドライポイント，リトグラフ），等の**「表現技法」**の要素の視点から，表現内容を捉えることもできるのである。

つまり，造形，美術の「表現内容」といっても，それらは実に多様な**「内容要素」**をもっている，ということである。また，「表現内容」の要素は，「鑑賞内容」の要素と背中合わせ，つまり「表現」と「鑑賞」の関係にあり，その視点は同様である。

造形，美術表現はどの様な内容であるかを考えるのに，最も一般的で分かりやすいのが表現の「内容要素」のひとつである「表現形式」で区分けする方法，つまり，絵画表現，彫塑表現，デザイン表現，工作・工芸表現，等ということであろう。

この「表現・鑑賞内容の要素」は，「造形，美術表現活動」の意味を捉えて行う「造形，美術教育」を考える上からも，分析，整理しておかなければならない重要な視点である。

ここでは，筆者の「表現・鑑賞内容論」である，「表現・鑑賞内容の要素」を分析，整理した**「造形表現・鑑賞内容の５つの基本的な内容要素と詳細」**[2)] **（図表２）**を参考資料として示しておく。（4　造形，美術教育学の構造内容の概要）の「③　Ⅸ」の項目と同様の資料である。

つまり，「造形，美術表現活動」とは，「表現・鑑賞内容の要素」をそれぞれの視点から追究し，乗り越えて表現していくことに他ならないからである。

②「造形，美術の専門教育」と「造形，美術教育」における「表現・鑑賞内容」の扱いの違い

造形，美術は多様な「表現・鑑賞内容の要素」もっていることを述べたが，造形，美術の専門教育の課題は，必要に合わせ，それぞれの「内容要素」としての「知識」や「技術」等を指導，教育することであろう。

つまり，**造形，美術の専門教育は，「表現・鑑賞内容」についての「知識」や「技術」を教えることが「教育課題」**ということである。

それはまた，**造形，美術の「表現・鑑賞内容の要素」を骨格構造とした内容領域でカリキュラムを編成する，**ということになる。

造形，美術の「表現・鑑賞内容」について，多少細かく述べてきたが，ここに**「造形，美術の専門教育」**と**「造形，美術教育」**の**「教育内容」や「教育課題」，「カリキュラム編成」**等に対する根本的な考え方の違いがあるということである。

「造形，美術教育」は，造形，美術の「表現・鑑賞内容」の教育ではなく，**「表現・鑑賞活動を通した教育」**である。**「表現・鑑賞内容」**は，造形，美術教育の**ひとつの要素ではあるが**，それらをもって**全体の教育内容や教育課題を説明することは出来ない**ということである。

③　造形，美術教育学の「構造内容」

造形，美術の「表現・鑑賞内容」について述べてきたが，それらは「造形，美術教育学」として，その一部を構成しているからである。

言うまでもなく，「造形，美術教育」は，造形，美術の「表現・鑑賞内容」があって，はじめて成立する教育である。

しかし，「造形，美術の専門教育」は，「表現・鑑賞内容」だけでも成立するが，**造形，美術表現・鑑賞活動を通した，人間教育としての「造形，美術教育」**は，「表現・鑑賞内容」とそれらの「指導方法」だけでは成立しないのである。そこには，造形，美術教育学が学問として成立する独自の内容があると言うことである。

つまり造形，美術教育学は，学問を総括する全体の内容構造とそれらを構成する内容項目をどのように捉えるか，ということである。

先ず，造形，美術教育は学問として，どの様な課題をもって，どの様な内容を研究するのか。

また，それらの内容の項目や要素，方向性や可能性はどの様なものか，造形，美術教育の全体を俯瞰し，内容等の全体と部分，相互の関係性を捉えておかなければならない。

しかし，造形，美術教育を学問として俯瞰することは難しい課題であり，それら，全体と部分，相互の関係は比較的曖昧にされてきたところである。

本論は，「造形，美術教育学の構造内容」を捉えて述べる場ではないが，論旨である「教員養成カリキュラムの編成方法と内容」を論述するにあたり，「造形，美術教育学の構造内容」は避けて通れない重要な要素である。

そこで，私自身が，既存の研究を捉えたり，造形，美術教育の現代的な課題や可能性等を勘案したりするなど，研究内容や方向性を俯瞰し，確認するために「Ⅰ～Ⅺ」，十一の内容項目を**「造形，美術教育学の構造内容」（図表１）**としてまとめたものと，各内容項目における内容要素の具体例を幾つか書き加えたもの**（図表１a）**を改めて資料として示しておく。

「Ⅰ～Ⅺ」の「内容項目」は，それぞれが独立した概念の括りとして設定してあるが，実際には線引きして分けられる様なものではない。造形，美術教育学の構造としての全体と部分は有機的であり，相互の関係性の中にあることを述べておく。

また，「Ⅰ～Ⅺ」のすべての内容項目に「造形，美術教育と～」としたのは，それぞれの項目が造形，美術教育との関連性を捉え，抽象論としてだけではなく，教育現場で生きて働くような内容が必要だからである。

この項では，筆者が仮に設定した「造形，美術教育学の構造内容」を示したが，「Ⅰ～Ⅺ」のそれぞれの内容項目についての具体的な説明は，（4　造形，美術教育学の構造内容の概要）の項で述べることにする。

２　教え，育てたい「資質や能力」，「教育課題論」とそれらを骨格構造にした「カリキュラム編成論」

本論は，図画工作・美術科教育，すなわち義務教育に携わる「教員養成カリキュラムの編成方法と内容」を捉えていくことである。

したがって，図画工作・美術科教育は，造形，美術の「表現・鑑賞内容」の教育ではなく，「表現・鑑賞活動を通した教育」である，とする考え方を捉えたうえで，さらに論を進めていくことにする。

それでは，表現・鑑賞活動を通して，どの様な知識，技能，「資質や能力」を教え，育てたいのか，先ず「教育課題論」を考えておくことにする。

「造形表現・鑑賞内容」の５つの基本的な「内容要素」と詳細

「造形表現」を追究するとは「何を表現する？」，「何で表現する？」，「どの様に表現する？」といった一連の表現活動を行うことである。それを具体的に，**ア）「表現対象／主題」，イ）「表現材料／素材／造形要素」，ウ）「表現形式」，エ）「表現様式」，オ）「表現技法／用具／知識」の５つの基本的な「内容要素」**に整理すると次のようになる。

ア）表現対象／主題（何を表現する・表現している）

ⅰ　対象：人物・動物，生活・情景，自然・静物，空想・物語，造形・オブジェ，他，（もの，こと）
ⅱ　主題：自分自身／造形感覚・感性，思想・心情，価値観・哲学，技術・様式，他，（各個人内設定）

イ）表現材料／素材／造形要素（何で表現する・表現している）

ⅰ　表現材料：自然材料，自然加工原材料，人工材料，加工既製品，他
ⅱ　表現素材：雨や雪や水，空気や風，自然や建物など人工物，場や空間，文字や記号，音や音楽，言語や物語，他
ⅲ　造形要素：色彩，形態，材質／触覚（視覚的触覚，触覚的視覚）《造形の三要素》
三原色，色彩の３要素（色相，明度，彩度），点，線，面，立体，構造，空間，時間，次元，他

ウ）表現形式（どの様に表現する・表現している）

○「平面（絵画・デザイン），半立体，立体（彫塑・工芸）」
○「純粋，心象的（絵画・彫塑），適応的（デザイン・工芸）」
※現行の中学校学習指導要領の内容領域
○「絵画・彫塑・デザイン・工作／工芸（木工，陶芸，竹芸，漆，染色，人形，他）」
※かつて，学習指導要領の内容領域として整理されていた。
○「漫画」，「映像（写真／映画／アニメーション）」
○「ファッション／衣装デザイン」，「舞台装置，建築デザイン」，「メイク，ヘアーメイク，特殊メイク」
○その他

エ）表現様式（どの様に表現する・表現している）

○ギリシャ，ローマ，ヘレニズム，ビザンチン，ロマネスク，ゴシック，ルネッサンス，バロック，ロココ，他（西洋美術）
○新古典主義，ロマン主義，写実主義，印象主義，後期印象主義，新印象主義，フォビズム，キュビズム，アールヌーボー，シュールレアリズム，ダダイズム，象徴主義，抽象主義，他（西洋美術／近・現代）
○飛鳥，白鳳，天平，貞観・弘仁，平安，室町，安土・桃山，元禄，化政，他（日本文化，美術）
○大和，狩野，琳派，古伊万里，古九谷，今右衛門，柿右衛門，他（日本文化／絵画，陶芸）
○具象，抽象，写実，装飾，他
○その他

オ）表現技法／用具／知識（どの様に表現する・表現している）

○表現技法・用具に対する技法
・表現形式，表現様式に対する技法
・材料処理としての技法
・用具の使い方に対する技法
○造形知識
・造形，美術史（時代や国，様式や人物，他）に対する知識
・材料，技法，用具に対する知識
・表現形式，表現様式に対する知識
・その他

※引用：『造形教育における授業デザインと授業分析』2011年　佐々木達行（東洋館出版）16P
『造形教育における授業の課題・目標と評価』2012年　佐々木達行（開隆堂出版）88P～89P

（図表２）

造形，美術教育学の構造内容
―内容項目における内容要素の具体例―

Ⅰ　造形，美術教育と教育原理（哲学）
Ⅱ　造形，美術教育と教育心理
○　幼児，児童，生徒の成長，発達と表現
○　幼児，児童の表現様式と美術様式
○　その他
Ⅲ　造形，美術教育と美術史
○　造形，美術教育における技術と芸術
○　造形，美術教育と美術様式
○　子供の表現様式と美術様式
○　その他
Ⅳ　造形，美術教育と造形，美術教育史
○　図画，手工教育
○　自由画教育
○　創造美育と構成教育
○　戦後の造形，美術教育の総括と課題
○　欧米の美術教育
○　学習指導要領の変遷
○　その他
Ⅴ　造形，美術教育と社会システム
○　義務教育と専門教育
○　公教育と社会教育
○　大学，大学院の教育システム
○　教員養成大学の教育システム
○　教育専門職大学院の教育システム
○　学校・学級経営のシステム（教育マネイジメント）
○　幼小中一貫教育
○　その他
Ⅵ　造形，美術教育の理念と教育課題
○　義務教育の理念と教育課題
○　義務教育としての造形，美術教育の教育課題
○　造形の教育と造形をとおした教育
○　造形をとおした教育の教育課題
○　専門教育としての教育課題
○　教員養成教育としての教育課題
○　その他
Ⅶ　造形，美術教育とカリキュラム
○　カリキュラムの構造と編成
○　表現形式を構造化したカリキュラム
○　教育課題を構造化したカリキュラム
○　造形を通した教育のカリキュラム
○　義務教育としての造形，美術のカリキュラム
○　造形，美術教育における教員養成のカリキュラム
○　美術専門教育のカリキュラム
○　その他
Ⅷ　造形，美術教育と授業構造，及び授業デザイン（構成）と授業分析
○　授業構造と構成要素
○　授業の造形表現・鑑賞内容
○　授業のデザイン（構成）方法と授業のデザイン（構成）条件
○　授業デザイン（構成）と授業分析
○　その他
Ⅸ　造形，美術教育と表現・鑑賞内容，及び教材／題材内容開発
○　表現・鑑賞内容の捉え方と内容要素
○　表現材料と造形要素
○　表現形式，表現様式と表現技法
○　表現・鑑賞内容と造形発想
○　表現・鑑賞内容と教材／題材内容開発の方法
○　表現・鑑賞内容と教材／題材内容開発の具体
○　その他
Ⅹ　造形，美術教育と指導方法
○　学習指導案の方法と内容
○　授業の導入とまとめの方法
○　場や環境の設定と支援方法
○　課題・目標，評価と評価方法
○　児童・生徒の実態と指導
○　資料の作成と活用
○　指導の実際
○　その他
Ⅺ　造形，美術教育と教育臨床（実践授業開発）
○　授業デザインと指導案作成の実践演習
○　授業／表現内容開発の実践演習
○　授業デザイン（構成）と授業分析の実践演習
○　指導方法の実践演習
○　カリキュラム編成の実践演習
○　その他

（図表１a）

さらに，教員養成大学における**「教員養成カリキュラム論」**を述べるには，造形，美術の表現・鑑賞活動を通した義務教育としての**「図画工作・美術科教育のカリキュラム論」**を捉えておくことも必要である。

①　表現・鑑賞活動を通した教育における「図画工作・美術科教育の教育課題論」

先に，「造形，美術の専門教育」と表現・鑑賞活動を通した「造形，美術教育」は，「表現・鑑賞内容」の扱いの違いであることを述べた。

「造形,美術の専門教育」は「表現・鑑賞内容」自体を「教育課題」として設定することである。

一方，表現・鑑賞活動を通した「造形，美術教育」における「表現・鑑賞内容」はひとつの要素ではあるが，それらを教育全体の「教育課題」として設定することは出来ない。

それでは,表現・鑑賞活動を通した「造形,美術教育」は,どの様な「教育課題」を設定することが出来るか，ということである。

この項目は「教育課題論」を細かく述べる場ではないので，筆者の図画工作・美術科教育における「教育課題論」である，**「課題要素Ａ・Ｂ・Ｃ」，６つの「活動課題」と中心的な「授業課題」**[3]**（図表３）**を参考資料として示しておく。（4　造形,美術教育学の構造内容の概要）

「課題要素Ａ・Ｂ・Ｃ」，６つの「活動課題」と中心的な「授業課題」

【課題要素Ａ】：「自他との関係の中に『自分らしさ（Identity）』を求め，人間的な自立を促す。」

⑴　造形表現活動の快さや楽しさを経験させ，心を開く。

○基本的材料による造形表現活動の快さや楽しさを体験させる。（自己対峙，自己確認，自己表出）
○造形的に表現することで自他や造形表現に対する考え方に心を開かせる。（自己対峙，自己開放）
○心を開いて造形的に表現できるようにする。（自己表現，自己開放）
○各自の造形的な趣向や興味，関心に気づかせる。（自己対峙，自己確認，自己肯定）
○自信を持って造形的に自らを他に伝える喜びを経験させる。（自己実現，自分理解，相互理解）
○造形表現とは，自らを表現する自己表現活動であることを知らせる。（自己肯定，自分理解，相互理解，自己確信）

⑵　造形表現活動を通して相互理解，人間理解を図る。

○自他の造形的なものの「見方」や「考え方」,「感じ方」, 或いは造形表現の違いや特徴などに気づかせ, それらが「自分らしさ」につながることを知らせる。
○自他の造形表現の違いや特徴を認め，尊重し，協力し合って「自分らしさ」を高め合う造形表現活動を促す。
○自他と対峙することを通し，造形表現すること，生きることの意味や価値を問い，人間的な自立を促す。

【課題要素Ｂ】：「ものごとを俯瞰的，有機的，総合的に捉え，自主的，主体的，創造的に造形表現しようとする。」

⑶　「自分らしさ」を，或いは造形的な課題や内容を自主的，主体的，創造的に追究，発見したり，自己表現したりする力を培う。

○自主的，主体的な造形表現活動の喜びを知らせ，意欲的，積極的な活動を促す。
○「自分らしさ」を，或いは自らの造形的な課題や内容を試行錯誤しながら追究，表現しようとする力を培う。
○造形的な課題に合わせ，表現対象／主題（テーマ），表現材料／素材／造形要素，表現形式や様式，表現技法／用具などの表現内容を選択，決定しようとする力を培う。
○表現対象／主題（テーマ），表現材料／素材／造形要素，表現形式，表現様式，表現技法／用具などの表現内容を活動の契機と捉え，自らの造形表現活動を自主的，主体的，創造的に追究，表現しようとする力を培う。

⑷　ものごとを俯瞰的に捉え，有機的，総合的に関係づけて行う総合的な造形表現活動を経験させ，造形的な総合力を培う。

○自らが持っている知識や技術，或いはものの「見方」や「考え方」,「関わり方」などの情報や経験を分析，整理したり関係的に整頓したりする造形的な情報分析，整理力を培う。
○造形的な課題や内容を場や状況などに合わせて客観的に俯瞰し，それらを有機的，関係的に捉えて追究，表現するための造形的な情報処理力を培う。
○総合的な造形表現活動を経験させ，造形的な課題や内容を発想・構想・活用（造形的思考力），選択・決定（造形的判断力），追究するなど，総合的な造形表現力を培う。

【課題要素Ｃ】：「造形的な知識や技能，ものの見方や考え方（発想・構想力／思考力）を養い，造形感覚や感性を培う。」

⑸　造形的なものの見方や考え方（発想・構想力／思考力）を養い，造形感覚や感性を培う。

○表現材料／素材／造形要素，表現形式や様式，表現技法などには決められた使い方があるわけではなく，自らを表現するために，それらをどの様にでも自由に活用することができる，とする見方や考え方を培う。
○造形要素としての「色彩」や「形態」,「材質」を捉え，或いは，表現材料／素材をとおして捉え，それらの違いやよさ，面白さなどの特徴を見たり感じたり，意味や理由を考えたりすることを通し，それぞれの特性や法則性，相互の関係性に気づかせながら,「造形的なものの見方」や考え方」（発想，構想力）を養い，造形感覚を培う。
○表現・鑑賞内容としての表現対象や主題，表現形式や様式，表現技法を捉え，それらの違いやよさ，面白さなどの特徴を見たり感じたり，意味や理由を考えたり，生かしたりするなどの表現を追究することから,「造形的なものの見方や考え方」（発想・構想力／思考力）を養い，造形感覚を培う。

⑹　造形的な知識や技能を養い，造形文化や歴史に興味や関心を持たせる。

○各自が自主的，主体的，創造的に表現するための造形的な知識や技能を養う。
○社会的，文化的に必要な造形文化や美術史を知らせ，それらを通して造形的な発想力や構想力，追究力，表現力，総合力を培う。
○造形文化や美術史を知らせることから，各自の造形的な価値観を培う。

※引用：『造形教育における授業の課題・目標と評価―図画工作科・美術科教育の理念と授業デザイン―』
2012年12月　佐々木達行（開隆堂出版）124-125P

（図表３）

の「⑥　Ⅵ」の項目と同様の資料である。

②　表現・鑑賞活動を通した教育における「図画工作・美術科教育のカリキュラム論」

教え，育てたい「資質や能力」を特定し，それらを「教育課題」として設定できれば，教育の課題を骨格構造の視点から捉えたカリキュラムを編成することが出来るだろう。

ここでも，本論は「図画工作・美術科教育のカリキュラム論」を細かく述べる場ではないので，筆者の「カリキュラム編成論」である，**『造形を通した美術教育の課題とカリキュラム編成の方法，及び編成モデルの研究開発』**[4]**『ⅲ－２－②教育課題をカリキュラム編成の骨格にする「課題要素」領域と「活動課題」領域の設定』（図表４）**の抜粋を参考資料として示しておく。（４　造形，美術教育学の構造内容の概要）の「⑤　Ⅶ」の項目と同様の資料である。

教え，育てたい「資質や能力」を特定し，「教育課題」を骨格構造としてカリキュラムを編成する方法の例である。

③　図画工作科の教科書におけるカリキュラム編成の例

現行の図画工作科の教科書にも，教え，育てたい「資質や能力」を捉え，「授業課題・目標」としてカリキュラム編成の骨格に取り入れた教科書[5]がある。

同書では，**「授業課題・目標」**を「図画工作で大切にしたいこと」とし，それらを具体的な**「３つの力」**として次のように示している。

○試したり，見つけたり，考えたりして思いつく力
○形や色，方法や材料を工夫する力
○心を開いて楽しく活動し，友達とかかわり，協力し合う力

カリキュラムは，教え，育てたい「３つの力（授業課題・目標）」と「造形表現活動の内容」の２視点を骨格構造とし，それらをマトリックスとして捉えた活動内容（題材）から編成されているのである。

「教え育てたい資質や能力」としての「授業課題・目標」を単純化した「３つの力」として捉え，カリキュラム編成の骨格構造として取り入れた例である。

３　教員に求められる資質や能力と教員養成大学における「教育課題」:「造形，美術教育学の構造内容」と「カリキュラムの編成」

表現・鑑賞活動を通した「造形，美術教育」，あるいは義務教育としての図画工作・美術科教育のあり方を捉えながら，教え，育てたい「資質や能力」，「教育課題論」とそれらを骨格構造にした「カリキュラム編成論」について考察してきた。

それらは，「教員養成カリキュラムの編成」を捉えるための布石でもある。

つまり，造形，美術教育に限らず，教育の本質は教え，育てる対象が児童，生徒，あるいは学生であれ，その**骨格は「教育課題」に帰結**する。

児童，生徒，あるいは学生に，どの様な資質や能力を育てるのか，つまり教育の課題をどのように特定するかということである。この「教育課題」の違いによって「教育内容」や「カリキュラムの編成」が変わってくるのである。

雑駁にいえば，「教育内容」の違いが，「教科教育」の違いということになる。

「造形，美術教育」の「教育内容」は，「造形表現・鑑賞活動」を行うことである。

例えば，「言語」を内容にすれば「国語科」に，「図形や数式」を内容にすれば「算数，数学科」に，「造形，美術」を内容にすれば「図画工作，美術科」という教科になる，ということである。

しかし，同じ「教育内容」である「造形表現・鑑賞活動」を行っても，何を教え，育てるのか，どの様な資質や能力を育てるのかにより，その教育の内容や課題は違ってくる。

「造形，美術の専門教育」と「表現・鑑賞活動を通した造形，美術教育」の「教育課題」は，おのずと違うということである。

それでは，「造形，美術教育における教員養成の教育課題，カリキュラム編成」は，どのように捉えたらいいのか。本論の主題である。

①　「造形，美術教育学の構造内容」と「教育課題」

先ず，義務教育としての「図画工作・美術科教育」における教員にはどの様な資質や能力が求められるかを考えてみよう。

それは，造形表現・鑑賞活動を促す授業を行うことを通して，児童・生徒を教え・育てることができる教員ということになる。

それには，造形，美術教育学の全体にわたる造詣を持っている，ということが言えよう。単に，絵が上手に描ける，ものが上手につくれる，というようなことでは教員として資質や能力を十分にもっているとは言い難い。

つまり，「造形，美術教育」における教員に求められる資質や能力とは，「造形，美術教育学の内容」を理解したり活用したりすることが出来るということである。

大学では，「造形，美術教育学の内容」を理解したり活用したりする資質や能力を育てることを「教育課題」とし，学生を教育することになる。

勿論，学問に対する理解の広さや深さ，あるいはそれらの質には程度があり，獲得した資質，能力の違いが学位の高さになる，ということである。

「造形，美術教育学」とその「内容」は，現場の教員に求められる資質や能力とかけ離れたものではなく，「造形，美術教育学の内容」を理解したり活用したりすること，そのものであるということである。

もとより，私が示した**「造形，美術教育学の構造内容」としての十一の内容項目（図表１）**は，仮に設定した一例である。

今後，様々な専門分野の研究者の英知を持ち寄り，「内容項目」や「研究内容，課題」等を精査，分析，整理したり，増減したりするなどして確固たる「造形，美術教育学」を構築していくことが重要である。

教育課題をカリキュラム編成の骨格にする「課題要素」領域と「活動課題」領域の設定

子どもたちの「自分らしさ」を培い，人間的な自立を促す図画工作科の「教育課題」を掲げ，３つの**課題要素をA，B，Cのカテゴリー**として括り，さらに**(1)〜(6)の６つの「活動課題」**として整理した。

これら，A，B，C，３つの「課題要素」と「活動課題」は子どもたちに「自分らしさ」を培い，自立を促すための課題として掲げたものであるが,「活動課題」自体を，相対的な価値の教育観に基づき，造形表現活動を通した教育のカリキュラムを編成するための新たな骨格構造や領域とするのが相応しいと考えた。

ここでは子どもたちに育て，培うための「教育課題」,「３つの課題要素」と基本的な６つの「活動課題」をカリキュラム編成のための骨格構造とする方法を取ったのである。

３つの「課題要素」と基本的な「活動課題」を基準とし,「課題要素」領域と「活動課題」領域として構造化する。

「表現形式」を基準に構造化し,「内容領域」としてカリキュラムを編成する方法に対し，子どもたちに育て，培いたい教育の課題を基準に「課題領域」として括って構造化し，カリキュラムを編成する方法を試みるものである。

この骨格構造であると，それぞれの「領域」に対応する教育の課題が明確に示されることになり,「活動課題」を正確に受けとめた授業を組織しやすくなることは当然である。つまり，子どもたちが追究する造形表現活動そのものの中に，授業の課題が埋もれていて見分けにくいものも，領域そのものが課題を示しているので，授業の構成や分析がたやすくなると思われるのである。

作品づくりや活動の結果としての作品の技能的な良否だけに目を奪われた評価も避けられるのである。また一方で，手段としての表現内容である平面や立体，或いは抽象や具象という表現形式や表現様式などに必要以上に左右されることも少なくなるであろう。

さて，A，B，C，３つの「課題要素」と「活動課題」を基準として構造化すると，３つの「課題要素」領域と６つの「活動課題」領域ができる。それらを整理し，新たに領域の名称をつけて順に示すと次のようになる。

ア）ＡＢＣ，各「課題要素」に【課題要素】領域としての名称をつけて位置づける

A　他との関係の中に『自分らしさ（Identity)』を求め，人間的な自立を促す。
【心の開放と自分理解，相互理解】領域

B　自主的，主体的，創造的に表現すること。
【自分らしさの追究力，発見力，表現力と総合力】領域

C　造形的なものの見方や考え方，造形感覚や感性を培う。
【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域

イ）ＡＢＣ，の各「課題要素」領域における６つの「活動課題」に「活動課題」領域としての名称をつけて位置づける

Ａ【心の開放と自分理解，相互理解】領域

(1)　造形表現活動の快さや楽しさを経験し，心を開く。
「造形表現活動の快さと心の開放」領域

(2)　造形表現活動を通して相互理解，人間理解を図る。
「造形表現活動を通した相互理解」領域

Ｂ【自分らしさの追究力，発見力，表現力と総合力】領域

(3)「自分らしさ」を,或いは造形的な課題を自主的,主体的,創造的に追究,発見したり,自己表現したりする力を培う。
「自分らしさの追究，発見，表現」領域

(4)　総合的な造形表現活動を経験し，造形的な総合力を養う。
「造形表現活動の総合力」領域

Ｃ【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域

(5)　造形的なものの見方や考え方，造形感覚を養い，感性を培う。
「造形的な見方・考え方と造形感覚」領域

(6)　造形的な知識や技能を養い，造形文化や歴史に興味や関心を持つ。
「知識・技能と造形文化」領域

※この活動課題領域は，(1)〜(5)の課題や内容を含み，それを越えて必要な知識や技能，造形文化や歴史に興味や関心を持たせることである。しかし，何を基準に造形的な知識や技能，造形文化や歴史を文化的，社会的な価値として認めるか議論となるところである。

（図表４）

②　教員の資質や能力を教育するための「教育課題」を骨格構造にした「カリキュラムの編成」

「造形，美術教育学の内容」を十一の項目に整理した。それらは造形，美術教育学としての「研究内容」であり，「研究課題」でもあるが，教員養成大学の視点からすると，各「内容項目」は教員に求められる資質や能力でもあり，学生を教育するための「教育課題」そのものである。十一の「内容項目」は，それぞれ十一の「教育課題」ということである。本論では，十一の「教育課題」は，教員に求められる資質や能力の全体を捉えていることにもなる。

それは「造形，美術教育学の内容」，つまり「教育課題」を骨格構造にした教員養成のための「カリキュラムの編成」ができる，ということである。

教え，育てたい資質や能力，**「教育課題」を骨格構造にした「カリキュラム編成の方法」**である。

次に，具体的なカリキュラムの編成ということになると，造形，美術教育学の各「内容項目」，すなわち十一の「教育課題」をどのように組み合わせて単位とするか，あるいはどのように配分するか，ということになろう。

また，教員養成大学の教員は，それらの「内容項目」，「教育課題」を達成するために，どの様な内容や方法の授業を行うかが重要である。

しかし，教員養成大学における具体的なカリキュラムの編成方法は，具体的な授業内容については本論をはるかに超える課題である。

具体的なカリキュラムの編成に至るには，今後，様々な専門分野からの教育学，カリキュラム研究の提案や集積が必要であろう。

造形，美術教育学がより成熟し，造形，美術教育に携わる教員養成に必要な「教育課題」の考察やカリキュラム編成を通し，表現技術や指導方法から自立，脱去することを期待して止まない。

4　造形，美術教育学の構造内容の概要

筆者が「造形，美術教育学の構造内容」として仮に設定した十一，「Ⅰ～Ⅺ」の各「内容項目」は，「造形，美術教育学」研究の本質を捉えようとするものであると同時に，教員の資質や能力を育てるための「教育課題」でもあると述べた。

各「内容項目」は，それぞれ教育学としての重要な意味や研究課題があり，具体的な説明が必要である。

「造形，美術教育学の構造内容」の概要は，もとより筆者の専門分野をはるかに超えるもので，具体的な内容や研究の可能性等の細かい説明は出来ない。

しかし，筆者の研究分野に近い内容の項目に関し，それらを設定した意味や研究の可能性の概要を雑駁ではあるが述べることにする。

「内容項目」はギリシャ数字の順に示したが，各項目の概要は数字の順を逆に辿って説明していく。

①「Ⅺ　造形，美術教育と教育臨床（実践授業開発）」

この内容項目は，教育現場での児童，生徒との実践的な授業研究が課題である。現場教員との協力があってはじめて意味を持つ研究内容等が主となる。

学生から捉えると，教育現場における教育実習の体験的な内容であると考えればよい。例えば，

- 造形，美術表現，鑑賞活動に関する，児童，生徒の実態を捉えた研究。
- 実践的な授業を通した教材／題材の内容開発の研究。
- 実践的な授業を通した授業デザイン（づくり），授業分析の研究。
- 児童，生徒の実態を捉えた，指導方法の研究。
- 指導計画方法や指導案作成方法等の研究。
- その他

②「Ⅹ　造形，美術教育と指導方法」

「指導（方）法」という文言はよく使われる。しかし，それはどの様な意味概念があり，どの様な内容であるのか，明確に示されていないようである。

教育学的な概念規程や内容等について研究の余地がある内容項目である。

筆者は，児童，生徒に対する具体的な「指導技術」で，所謂，「教え方」，「教える技術」に関する内容項目であると捉えている。

つまり，「指導方法，技術」とは，授業を通し，知識や技術，情報，あるいは，「授業課題・目標」等を児童，生徒の実態や状況に合わせ，適切に，あるいは合理的に教え，育てるためのものである。

「指導方法，技術」は，線引きして分けることは出来ないが，およそ「精神的要素」と「物理的要素」が考えられる。

例えば，次のような内容や研究課題としての視点があろう。

- 児童，生徒同士，児童，生徒と教師との関係が精神的に開かれ，自由にコミュニケーションが取れ，気楽に，楽しく活動できる雰囲気や環境のつくり方。（精神的要素）
- 児童，生徒の実態や個性等に対応した適切な接し方，関わり方。（精神的要素）
- 児童，生徒が活動しやすい，物理的な教室の環境，ものの配置等の方法。（物理的要素）
- 表現・鑑賞内容に関連した発問や支援のタイミング，あるいは言葉の使い方，等。（物理的要素）
- 教材（題材），表現・鑑賞内容に対する興味や関心のもたせ方，等。（精神的／物理的要素）
- 合理的で分かりやすい板書の方法。（物理的要素）
- 適切な資料の作成と提示の方法。（物理的要素）
- 授業の課題・目標に合わせた，グループ，集団，等のつくり方。（物理的要素）
- その他，授業における具体的な指導方法，等

③「Ⅸ　造形，美術教育と表現・鑑賞内容，及び教材／題材内容開発」

ここは，先ず，造形，美術における「表現・鑑賞内容」とは，どの様なことか，造形表現活動の本質を捉え，造形，美術の「表現・鑑賞内容論」を包含した内容項目である。

「表現・鑑賞内容」とは，どの様なことなのかを考えることは，児童，生徒に限ったことではない。芸術家や

職人，大人や子供等，造形表現活動に関わるすべての人にとって大切な内容である。

つまり，児童，生徒に造形表現活動を促すのに，それらは何を追究していけばいいのか，あるいはどの様なハードルを乗り越えればいいのか，造形表現活動の本質を捉えるとともに，それらを教育としてどのように活用するかが主とした内容であり，研究課題となる。

ここでは，改めて筆者の「表現・鑑賞内容論」である，「表現・鑑賞内容の要素」を分析，整理した**「造形表現・鑑賞内容の５つの基本的な内容要素と詳細」**[2]**（図表２）の例**を，参考資料として示しておく。

「表現・鑑賞内容の要素」，それぞれについて，知識や技術を深めるような具体的な研究も必要である。

次に，「表現・鑑賞内容」を捉え，それらを授業に取り入れるために，あるいは時代に合った内容を教材／題材化するなど，**「教材／題材内容開発」**も，この内容項目の研究課題である。

学生は，「表現形式」，例えば，絵画，彫塑，デザイン，工作，工芸，映像，ファッション等，自らの専門技術をひとつ選択し，「教材／題材内容開発」の実践的な研究を行うことが考えられる。

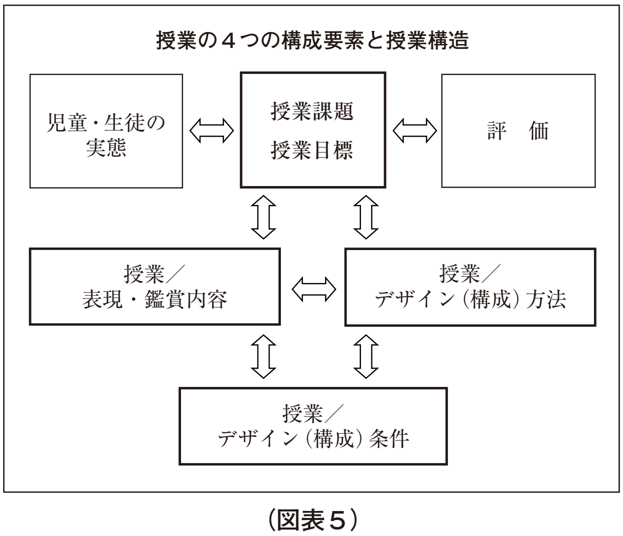
④「Ⅷ　造形，美術教育と授業構造，及び授業デザイン（構成）と授業分析」

この項目は，簡潔にいえば，「授業」とは，「何を」，「どのようにつくるか」を研究する内容項目である。

つまり，「授業構造」や「授業デザイン（構成）と授業分析」等，授業の本質を捉え，それらの研究を実践的な授業として活用するための授業を構築する基礎理論が中心的な研究課題となる。

研究参考例として筆者の「授業構成，分析」の基礎理論，**「授業の４つの構成要素と授業構造」**[6]**（図表５）**を示しておく。

授業の構造として４つの構成要素を捉え，それぞれの構成要素の内容に合わせ，授業を論理的，客観的にデザイン（構成）していく授業の構成理論である。



（図表５）

構築した授業の基礎理論を基に，具体的な「授業デザイン（構成）力」や「授業分析力」を育てる方法学や実践学を研究する。例えば，

・授業の構造と構成要素
・授業デザインの方法（課題追究型，問題解決型，総合型，示範型，等）
・問題解決型の授業デザイン実践研究
・課題追究型の授業デザインと表現内容の要素
・授業デザイン（構成）と授業プラン（企画）
・その他

教員の主とした仕事は，プロとして授業を行うことである。そのためには，授業とは何かを知り，授業をデザイン，分析出来なければ，その役を担えない。教員に求められる最も重要な能力のひとつである。

しかし，「授業構成，分析」等の基礎理論は，ほとんど研究されていない。当然，学生が大学でそのようなことを研究することも，指導されることも少ない。

そのためか，「授業とは何か？」，「授業をどのように作るか？」を知らない教員がたくさんいる。

例えば，自分は絵が描けるので，その方法を教えることが授業であると考えていることもあるようだ。

この内容項目は，そうした授業の基礎理論を研究し，学生や教員に提供，バックアップするためにも重要な役割をもっている。

⑤「Ⅶ　造形，美術教育とカリキュラム」

教科教育は日々の授業の積み重ねで成り立っている。授業をひとつの点と考えると，それらをつなげると線になり，線を並べると面になる。

つまり，授業という点を，教育課題を達成するためにどのように組み合わせるかがこの内容項目の研究課題である。所謂，カリキュラム研究，カリキュラム開発研究等である。

カリキュラムといっても，一般論から各教科教育のカリキュラム論まで多種多様である。勿論，ここでは造形，美術，あるいは造形，美術教育におけるカリキュラム論である。

教科教育は，それぞれの教科で設定した教育課題を達成するために行うものである。

カリキュラムの編成は，設定した「教育課題」を効果的に達成するためには，どの様な「カリキュラムの骨格，構造」が適切であるのか。また，どの様な「授業デザイン」の，どの様な「表現・鑑賞の内容」の組み合わせが適切であるのかを考えて行うものである。

つまり，カリキュラムの編成で，最も考慮しなければならないことは，その教科が設定した「教育課題」を効果的に達成するための最適な方法を考えることである，ということになる。ここが曖昧であると，カリキュラムの編成も定まらない。「教育課題」の違いにより，カリキュラム研究の内容も違ってくる。

しかし，一般論として「カリキュラム」は研究されているようだが，教科教育学としてカリキュラム研究はほとんどされていない。

それでは，教育現場でどのように各教科のカリキュラムを編成するのであろうか。前項でも述べてきたが，カリキュラムの編成は，表現・鑑賞内容，あるいは「教材／題材」を単純に並べることではない。

造形，美術教育のカリキュラム編成の基礎理論と編成方法の研究が必要である。

以下は，この内容項目の研究課題の例である。

・幼児造形教育におけるカリキュラム論

・図画工作，美術科（義務教育）におけるカリキュラム論

（※筆者「カリキュラム編成論」：『造形を通した美術教育の課題とカリキュラム編成の方法，及び編成モデルの研究開発』[4]『ⅲ－２－②**教育課題をカリキュラム編成の骨格にする「課題要素」領域と「活動課題」領域の設定**』（**図表４**）を抜粋したものを参考資料として示しておく。

・造形，美術専門教育におけるカリキュラム論

・造形，美術（図画工作・美術科）教育における教員養成カリキュラム論（※本論はこの研究課題に対応している内容である。）

・単元構成カリキュラム，学年カリキュラムの研究開発

・「表現内容領域」等に対応する学年縦割りカリキュラムの研究開発

・その他

カリキュラムの研究課題として，内容を大きく括った研究例を幾つか述べたが，それぞれの研究課題はさらにきめ細かい研究が必要である。

当然，基礎理論をもたない教育現場では，表現・鑑賞内容を羅列したものをカリキュラムの編成と勘違いしている様な状況である。学問としての造形，美術教育学が問われることになろう。

この内容項目であるカリキュラム研究の蓄積が早急に必要である。

⑥「Ⅵ　造形，美術教育の理念と教育課題」

この内容項目は，前項の「Ⅶ　造形，美術教育とカリキュラム」と背中合わせの関係にある。カリキュラム論は教育理念を捉えた教育課題論を前提にして構築されるからである。

「教育理念」は，時代や民族，社会の考え方，価値観等を反映し，教育のあり方や理想を捉えた抽象的な概念として示されるものである。よく使われる，「資質や能力」は，一般的，抽象的な文言で示されるものが多く，教育理念としての扱いに近いものであろう。

一方，「教育課題」は，「教育理念」を捉え，教育の対象者，具体的には児童，生徒等に何を教え，どのように育てたらいいか，実践的な教育の現場で具体的に捉えておかなければならない課題である。

「教育理念」は，時代や民族，社会の考え方，価値観等を反映し，変化するものであるなら，それを捉えた「教育課題」も変化する，ということになる。

日本の義務教育における「教育課題」は，高度経済成長に伴って変化してきた。読み書きそろばんを教えることで，「経済的な自立」を促すことを課題とした義務教育は，それらを達成することで新たに「人間的，精神的な自立」を促すことを課題とすることになる。

所謂，「新学力観」や「生きる力」といった，新たな「教育課題」がそれである。

「知識や技術」，あるいは「情報」等を教える様な課題は比較的単純で分かりやすい。しかし，人としてのあり方を捉えようとする「新学力観」や「生きる力」は，当然哲学を含んでいて，極めて捉えにくい課題である。

しかし，「人間的，精神的な自立」，あるいは「生きる力」といった相対的な価値観を捉え，それらを「教育課題」として整理，分析することは，哲学を包含する造形，美術教育学としては重要な研究課題となろう。

「知識や技術」，「情報」等，絶対的な基準や価値観には正答はあるが，ものごとの見方や考え方，選択力，判断力や決定力といった「活動行為」，感覚や感性等，相対的な規準や価値観を含んだものごとには正答はない。

これらを勘案し，造形，美術教育の視点から相対的な価値概念を小さなものごとから大きなものごとまで段階ごとに整理，分析し，「教育課題」としてまとめることの難しさがある。

この内容項目の研究に属する，筆者の既刊の**「教育課題論」である，『「課題要素Ａ・Ｂ・Ｃ」，６つの「活動課題」と中心的な「授業課題」』**[3]（**図表３**）を，参考資料として示しておくことにする。

表現・鑑賞活動を通した「造形，美術教育」において，教え，育てたい「資質や能力」を特定し，それらを大中小，三つの「教育課題・活動課題・授業課題」として整理，分析したものである。

今後，「人間的，精神的な自立」，あるいは「生きる力」といった新たな価値観を様々な視点から捉えた造形，美術教育学としての「教育課題」に対する研究が期待されるところである。

⑦「Ⅴ　造形，美術教育と社会システム」

造形，美術教育は現代社会システムの中に固定されている分けではない。先にも述べたように，教育は時代や民族，社会の考え方，価値観等を反映し，変化するものである。ならば，造形，美術教育に対応するシステムも変化していかなければならない。

この内容項目としての研究課題の例である。

・幼，小，中，高，大，等の一貫教育システム

・幼，小，中，高，大，等の複線的教育システム

・義務教育としての「幼，小」，「中，高」の教育システム

・教育学部，大学院の一貫教育システム

・専門職大学院，教職大学院の教育システム

・義務教育と社会教育に関する教育システム

・大学教育，美術館教育に関する教育システム

・その他

中央集権的な考え方が強い日本は，社会教育が立ち遅れてきた。そのためか公教育と社会教育が分断されていて，相互の関連システムも少ない。

筆者は，この内容の専門ではないので論述する見識もないが，この内容項目の研究は教育のシステム改革としても極めて重要である。また，様々な視点から研究課題が捉えられ，内容を充実させていくことが必要である。

⑧「Ⅳ　造形，美術教育と造形，美術教育史」

造形，美術教育史の内容項目は，今後の造形，美術教

育を考えるうえで，重要な指針を含んでいる。

造形，美術教育は，何処にはじまり，現在我々は何処にいて，これから何処へ行けばいいのか重要な研究課題である。

この内容項目は，今後の造形，美術教育は担う学生にとっても重要で，過去や現在を知らなければ未来を思考することは出来ないからである。

この内容項目は様々に研究が積み重ねられていると思うが，単なる過去の教育史研究に終わることなく，今後の造形，美術教育の指針となるような研究成果が期待される。

⑨「Ⅲ　造形，美術教育と美術史」

造形，美術史の研究は，専門教育の場でも行われているので，その研究は多種，多様である。改めて言うまでもないが，ここでは造形，美術教育として，児童，生徒を教育するために造形，美術史をどのように活用するかを含めた内容項目である。造形，美術史それ自体の研究は，造形，美術教育学の研究者の研究課題ではない。

造形，美術史の研究の成果は，それらの知識や技術的な指導に止まっていることが多いように思える。

それは児童，生徒の成長にとってどの様な意味があるのか，何のための技術であるか等，造形，美術教育学として捉えた視点の研究が大切なのである。

造形，美術作品を通した表現の意味や考え方，つまり最も重要である価値観を包含した表現主題や表現様式等を取り上げ，それらについて思考，判断，追究したり，それらの根拠となる情報を正確に伝えたりするような造形，美術史の内容開発研究が必要なのである。

また，造形，美術を悪戯に感覚的，感性的に捉えるのではなく，論理的，教育学的に捉えることも重要である。

一般的に興味や関心が高い造形・美術史を通した教育の内容開発研究や授業デザイン研究は，この内容項目の重要な研究課題となるだろう。

⑩「Ⅱ　造形，美術教育と教育心理，Ⅰ　造形，美術教育と教育原理（哲学）」

これらの内容項目は，筆者の専門外で，細かく論述することは出来ないが，この内容項目も，造形，美術教育との関連で研究されなければならない。

一般的な心理学として，あるいは教育原理や哲学として論述されることはあるが，造形，美術教育の視点から，現場の教育，あるいは授業等の授業課題，表現・鑑賞内容，指導方法等に関連し，新たな教育のあり方等を提案していくような専門的な研究を積み重ねが必要である。

心理学や哲学を背景とした研究は，造形，美術教育学を学問として充実させていくことにつながり，重要な研究課題をもっている。

５　今後の課題

教え，育てたい資質や能力，つまり「教育課題」を骨格構造にした「教員養成カリキュラムの編成方法」を提案してきた。教員養成大学として学生を育てる教育の課題とは，まさに「造形，美術教育学の内容」そのものである。図画工作・美術科の教員としての資質や能力とは，造形，美術教育の全体にわたる造詣を持っていることだからである。

そのためには，「造形，美術教育学」そのものが時代や社会の変化に対応し，現場の教育に生きて働くような，あるいは意味や価値ある研究内容や課題をもち続けていかなければならない。未来に向けた教育のグランドデザインを常に提案していけるような「造形，美術教育学」でありたい。

そうした研究の成果は，結果として学生や教員の資質や能力，さらには社会における教育の価値を高めることになろう。

現在，残念ながら教科教育学は未成熟である。戦後の民主主義的な教養主義や文化人教育は，教育を解放して一定の成果を上げてきたが，教養主義的な考え方が長く続きすぎたせいか，結果として教科教育学の進化を阻害してしまったように思える。

造形，美術教育も，表現内容主義や技術，結果主義に陥り，人間教育，あるいは臨床教育学としての研究内容や研究課題の質が担保されていない。

結果として，「造形，美術教育学の構造内容」として提案したような「内容項目」に対する研究課題は未開発のまま残されているものが多い。

今後，造形，美術教育学を構造的に捉え，その「内容項目」や「研究内容，課題」等を精査，分析，整理したりしながら，総合的な人間教育学としての骨格構造を構築していくことが必要である。

それには様々な専門分野の研究者の英知や研究成果を持ち寄り，協力し合いながら多角的な造形，美術教育学を成熟させていくことが期待される。

【引用・参考文献】

１）「造形，美術教育学の構造内容」(図表１)，(図表１a)
：造形，美術教育学はどの様な構造を持っているのか研究を構造的に捉えるために私が仮に設定したものである。自らの研究が，造形，美術教育学の何を研究し，どの位置の研究であるのか，また，何が研究されていないかを俯瞰するためである。造形，美術教育学を構造的に捉えた内容はほとんど考察されていない状況であり，単純な「造形表現・鑑賞内容，方法論」として扱われていることがほとんどである。しかし，教員養成のカリキュラム編成の視点からも，造形，美術教育学の構造的な内容を明確にしないと，教員養成カリキュラムも編成できないことになる。造形，美術教育学としての構造内容の整備は今後の重要な課題である。

２）「造形表現・鑑賞活動の内容」の既論の概要，「造形表現･鑑賞内容」の５つの基本的な要素と詳細(図表２)
：【『造形教育における授業デザインと授業分析』2011年　佐々木達行（東洋館出版）16P】【『造形教育における授業の課題･目標と評価』2012年　佐々木達行（開隆堂出版）88P-89P】引用

３）「授業課題・目標」論，「課題要素Ａ・Ｂ・Ｃ」，６つの「活動課題」と中心的な「授業課題」（図表３）
：【『造形教育における授業の課題・目標と評価─図画

工作科・美術科教育の理念と授業デザイン―』2012年12月　佐々木達行（開隆堂出版）124-125P】引用
4）『iii-２-②教育課題をカリキュラム編成の骨格にする「課題要素」領域と「活動課題」領域の設定』（図表４）
：『造形を通した美術教育の課題とカリキュラム編成の方法，及び編成モデルの研究開発』（18530723）平成18年度～19年度（2006-07）学術科学研究費補助金［基盤研究（c)］研究成果報告書 平成20年３月研究代表者 佐々木達行（宮崎大学）引用
5）「図画工作で大切にしたいこと」
：『図画工作１・２，図画工作３・４，図画工作５・６』平成26年２月24日検定済教科書　日本造形教育研究会・開隆堂出版（株）
6）授業を構造的な視点から，その「構成要素」を「授業課題・目標」，「表現・鑑賞内容」，「デザイン（構成）方法「デザイン（構成）条件の４つのカテゴリーから捉えて整理し，設定した（図表５）
：『造形教育における授業デザインと授業分析』佐々木達行　2011年（東洋館出版社）【Ⅳ　授業デザインと授業分析の理論，１ 授業の４つの構成要素と授業構造　134P】引用